

No.13

株式会社 工藤

代表取締役

工藤 規行

第8期生



マルチプレーヤー工藤規行
地元の工業高校電気科を卒業後、工藤さんは、東北全体を営業エリアとする大手企業に就職する。そこで電気工事にまつわる様々な経験を積んだ後、鶴岡市藤島地区で、家業の㈱工藤に就職した。そして一旦は家業に従事した後、自社に関連するガス会社に転職することになった。特筆すべきは、ガス会社を退職後に家業へ戻らず、新たな可能性を模索するため、個人創業という道を選んだことだ。「自分が考える新しい価値と同業他社との差別化を確立したかったから。その理由をこう話してくれた。そしてそこで得た顧客や新しいノウハウを統合する形で(㈱工藤を)事業承継し、現在に至っている。多岐に渡る業務に従事してきた経験から、名刺に記載されている資格は実に14を数える。特に電気主任技術者とガス主任技術者の資格を併せ持つ個人はかなり珍しいのではないかとのこと。例えば台所機器でいえばIHキッチンヒーターもガスコンロも両方扱えるからこそ、利害を排除し、純粋にその家庭にベストな提案ができる。それが(㈱工藤)の大きな強みになっている。

「イエス」か「はい」しかありえない(笑)

工藤さんはこれまで、鶴岡青年会議所(以下:JC)理事長、赤川花火大会会長、出羽商工会青年部長、鶴岡工業高校PTA会長、藤島ライオンズクラブ役員から町内会の役員まで様々な役職を引き受けてきた。「返事は『イエス』か『はい』の2通り。当時の鶴岡JCにはこんな話があった。そして「頼まれごととは試されごと」。工藤さんの口からはこんな言葉も発せられた。どんなに大変な役職でもとりあえずまずは聞いてやってみて、どうすればその組織が良くなるかを全力で考え行動する。そしてそれを自身の成長にも繋げていきたい。こんなひたむきな心持ちが醸成した、多岐に渡るジャンルの人々との人脈もまた、(㈱工藤)の強みのひとつである。

希望の光プロジェクト

工藤さんがJCの理事長に就任した年の3月、東日本大震災という未曾有の大災害があった。世間に自粛ムードが漂う中、組織のトップとして、鶴岡JC最大の事業である赤川花火大会を実施するかどうかという非常に難しい選択を迫られた。大会に対する思い入れが強い女性メンバーに、涙ながらの心のうちを聞いたことや、当時の鶴岡市長、商工会議所会頭からの強い後押しもあり、実施を決定した。しかし、「ただ開催するだけでは駄目だ。」工藤さんはその時他の実行委員会メンバーとともに強く思ったという。そこでみんなで知恵を絞り、福島県の小

学生400人を赤川花火大会に招待するという「希望の光プロジェクト」を立ち上げることになった。花火大会の準備と並行して、資金面や宿泊先の問題など、ゼロイチの事業を立ち上げる上での様々な壁を乗り越えながらも、プロジェクトを成し遂げた。「当時、放射線量の問題から外で遊ぶなかつた福島の子供たちが、何かから解放されたように遊ぶ姿、花火を見つめる姿を思い返すと、今でも涙が出る。『今』当時を振り返る。「自分達も含め関わりのある人全てを喜ばせたい。」常に、どんなことにおいてもそう強く願う、工藤さんが組織のトップだったからこそ成し得た大業だろう。その後「希望の光プロジェクト」は形を変えながらも4年間継続することとなり、赤川花火大会の名を、更に全国に響かせることに繋がっていく。

若手経営者塾で得たもの

若手経営者塾に入塾したきっかけは、当金庫の担当者、前向きな工藤さんを見て入塾を熱心に勧めたからだ。「オレももう若手じゃねえぞ」という照れながらも、選択肢は「イエス」か「はい」しかなかった。印象に残っているのは鶴岡シルク大和社長によるフロンディングの講義を受けた際の「気付き」だ。「自分をブランディングするため、自分の名刺に自社の経営理念を記載しよう。」それを講義終盤の行動計画で宣言し、実行した。無数にある小さな気付きをどれだけ行動に移せるか。若手経営者塾のメリットを最大限に活かせるヒントを工藤さんは教えてくれた。

地域社会の理想のくらしを実現する

人口減少、少子高齢化、核家族化などで、家事・育児・介護といった家事全般はマルチタスク化し、家族一人一人に課せられた負担は増え、高度化している。また、地域の人口が減少する中、町内会・消防団・PTA等の地域活動も誰かがやらなければならない。仕事もある。そんな現代の地域社会における課題を解決したいという想いが(㈱工藤)の理念になっている。電気・ガス関連の施工・提案営業はもちろん、アンテナ工事や灯油販売、時短家事のコーディネートという面白いものでは、シニア向け御用聞きサービスという業務まで全て一人でこなしている。「何でも屋」の工藤さんは、地域でのくらし全般をコンサルする。これまで工藤さんが蓄積してきた全てをフル活用し、一日の内の家事に費やす時間を減らしたい。そして家族と過ごす時間や、地域コミュニティに費やす時間を増やしてあげたい。地域コミュニティを愛し、様々な人脈を有し、様々な業務をこなす「何でも屋」。(㈱工藤)の理念の先に、現代の地域社会における理想のくらしがある。

株式会社 工藤

鶴岡市大字上藤島字鑑田畑 32-1

Mail: kabu.kudo@gmail.com

HP: <https://r.goope.jp/kabukudo/>



鶴岡信用金庫

つなぐ力で100年幸せな街づくり

<https://www.tsuruoka-sk.jp/>

